The 36th Annual Meeting of the Japanese Society of Clinical Cytology,Ishikawa Branch

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-10-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Ikeda, Hiroko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00059775

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

『学会開催報告』

第36回石川県臨床細胞学会学術集会

The 36th Annual Meeting of the Japanese Society of Clinical Cytology,Ishikawa Branch

金沢大学附属病院病理診断科
池　田　博　子

第36回石川県臨床細胞学会学術集会が令和2年1月26日(日)に金沢大学附属病院宝ホールにて金沢大学附属病院病理診断科中田聡子の世話人で開催されました．石川県臨床細胞学会は石川県内の細胞検査士，病理医や産婦人科医などの細胞診専門医が所属しており，毎年この時期に会員の細胞診断レベルの向上を目的とした学術集会を開催しています．今回の学術集会には会員の他，臨床検査技師，病理医，産婦人科医，泌尿器科医，臨床検査技師を目指す保健学科の大学生を含めて，158名と多数の皆様にご参加頂きました．

一般演題は6題で，石川県立中央病院からは「術中腹水中に印環細胞がみられ，胃癌との鑑別が困難であった浸潤性小葉癌大網転移の1例」，金沢医科大学病院からは「唾液腺扁平上皮癌の1例」，金沢医療センターからは「内視鏡的経鼻膵管ドレナージ留置下連続膵液細胞診の有用性の検討」，金沢市立病院からは「混合型小細胞癌の1例」，金沢大学附属病院からは「腎ラブドイド腫瘍の1例」と「当院における尿細胞診疑陽性症例の検討―泌尿器細胞診報告様式2015とThe Paris Systemとの比較」が発表されました．症例報告から細胞採取方法の工夫，細胞判定報告様式の検討と様々な内容で，各演者の発表に対し，座長，フロアから貴重なコメントや質問が寄せられました．

今回の教育講演と特別講演には泌尿器病理の分野で有名な二人の先生をお招き致しました．これは2019年4月に金沢大学で行われた泌尿器細胞診のワークショップと関連づけて企画されたものです．4月のワークショップは泌尿器細胞診カンファレンス主催，石川県臨床細胞学会後援で開催され，泌尿器細胞診の報告様式について講義と実習により尿細胞診断について学ぶ機会となっていました．尿細胞診断の報告様式については，2015年に日本で泌尿器細胞診報告様式2015が，2016年にThe Paris Systemが相次いで発表され，どちらも膀胱癌の中でも特に予後不良な高異型度尿路上皮癌を早期に発見し，早期治療，予後の改善につなげようという目的で行われています．まず教育講演では製鉄記念八幡病院病理診断科の金城　満先生に「日常の尿細胞診に役立つポイントとピットホール」と題してご講演頂きました．診断のポイントについては，迅速に正確な細胞診の報告を目指して，尿細胞診の所見を詳細に判別分析の手法で解析をされた結果を発表されました．特に弱拡大の3所見，強拡大の6所見で悪性細胞を診断するという内容でした．ピットホールについては特に小型の高異型度尿路上皮癌細胞と腺癌について解説をされました．学生や細胞診の初学者にもわかりやすい内容となっていました．

特別講演では愛知医科大学病院病理診断科の都築豊徳先生に「膀胱癌診療ガイドラインから見た尿細胞診の運用について－The Paris Systemを中心に－」と題してご講演頂きました．国際的な尿細胞診報告様式のThe Paris Systemについて紹介され，膀胱癌を対象とした尿細胞診の適正評価には30mL以上の尿が必要であること，膀胱癌診療ガイドラインとの関連性，扁平上皮への分化を伴う尿路上皮癌の診断の重要性と治療効果について，膀胱癌の分子生物学的分類の現状など最新のトピックスを含む多岐にわたる内容をコンパクトに興味深くお話頂きました．講演終了後は質問が相次ぎ，参加された先生方の関心の高さがうかがわれ，発表した都築先生も反響に驚いておられました．

最後のスライドセミナーでは婦人科は金沢市立病院産婦人科の金谷太郎先生，総合科は公立松任石川中央病院病理診断科の丹羽秀樹先生が出題者となっての発表でした．スライドセミナーは症例の提示，予め細胞診標本をみている若手細胞検査士の解答者の発表，出題者の解説，フロアからのコメントという流れになっています．婦人科は子宮頸部上皮内腺癌＋高異型度扁平上皮内病変の症例，総合科は甲状腺低分化癌の症例でした．どちらの症例も詳細な解説がなされ，日常診療に役立つ内容でした．婦人科の症例は開業医の婦人科医によって検体が採取され，石川県医師会臨床検査センターで細胞診標本の作製，スクリーニング，細胞診断が行われた症例でした．第一線で診断された貴重な症例で，細胞像そしてその後の治療方針についての金谷先生の解説も大変勉強になりましたが，開業医や検査センターの細胞診断における役割の重要性が再認識される機会ともなりました．

途中に開かれた総会では谷本一夫賞の授賞式も行われました．谷本一夫賞は北陸地区における臨床細胞学の学術的活性化を目的とし，平成27年に逝去された故谷本一夫先生のご遺族からの寄付をもとに運営されています．論文部門は金沢大学医薬保健研究域保健学系病態検査学の笠島里美先生が，発表部門は金沢大学附属病院病理部の下田　翼先生が受賞されました．

今回の学術集会では金沢大学医薬保健研究域保健学科の臨床検査技師を目指す学生40人程も参加していました．指導されている笠島里美先生のお話では学会傍聴についてのレポートには「まだまだ専門領域を勉強しなければならないと思った」とか「将来自分も学会で発表してみたい」といった感想が寄せられたそうです．臨床検査技師，医師のみならず，学生にも細胞診について学ぶよい場となったことをとても嬉しく思います．

最後に本学術集会に参加いただきました皆様，本会を開催するにあたりご協力いただきました企業と金沢大学十全医学会，会場の準備や当日の運営に尽力して頂きました金沢大学附属病院病理部と金沢大学大学医薬保健研究域総合科人体病理学教室のスタッフの皆様に深く感謝申し上げます．